



☆ やっと、春!

今年の冬はとて長くて、なかなか春がやってきませんでした。やっと、春本番!
いろいろな花が咲きだし、つくしも顔を見せています。新1年生は重そうなランドセルを背負って、まるでひよこの行列のようです。

そこで、今回は、春の気分を満喫できる本を集めてみました。不思議な本からかわいい本まで、春気分そのままに、のんびり、ゆったりと絵本を楽しんでみてください。



春、本番!



絵本・こりゃ まてまで

中脇初枝文、酒井駒子絵、福音館書店(0.1.2.えほん)

歩きだしたばかりの子が、チョウを追いかけます。「こりゃ まてまで」でも、チョウは“ひら ひらひら”と飛んで行ってしまい、次にトカゲを捕まえようとなりますが……。

かわいらしい絵と、単純な繰り返して、幼い子の好奇心あふれる日常を描き出した絵本。親子で会話を楽しめる一冊です。幼い子に。

絵本・もこ もこもこ

谷川俊太郎作、元永定正絵、文研出版

“しーん”と静まり返ったところから、突然、“もこもこもこ”によきと何かが膨れ上がってきます。その何かは、どんどん大きくなって、やがて“ぱちん!”とはじけて……。

谷川俊太郎による擬音語だけの絵本。色鮮やかな絵が言葉に調和して、夢の世界を描き出しています。

絵本・ぼちぼちいこか

マーク・セイラー作、ロバート・グロスマン絵、今江祥智訳、偕成社

重量級のカバ君は、消防士、船乗り、パイロット、……と、度重なる失敗にもめげずに、いろいろな仕事に挑戦していきますが……。

マンガ調の絵と、関西弁もユーモラスな絵本。せちがらい世の中、のんびり、ゆっくり、自分のことを考えてみるのもよいことですよ。

“ま、ぼちぼちいこか。ということや。”

絵本・まりーちゃんとひつじ

フランソワーズ文・絵、与田準一訳、岩波書店(岩波の子どもの本)

まりーちゃんとひつじのぱたぼんは大の仲良し。まりーちゃんはぱたぼんに言います。「お前はいつか子どもを産むでしょう。そしたら、……。」想像はどんどん大きくなっていきますが、……。

詩のように流れる文章と、簡素で暖かみのある絵が、子どもの空想の世界を広げてくれます。



科学絵本・さくら

長谷川摂子文、矢間芳子絵・構成、福音館書店(かがくのとも絵本)

春、花が咲いて、散ったかと思えば、葉が茂り、実がなり、夏には虫たちで大賑わい。

お花見と言えば桜ですが、この本は、一本の桜の木の1年を、その木を主人公に描いたものです。精緻な絵と、リズムカルな文章は、桜の木の生命あふれる営みを、美しく描き出しています。



★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください!

今回は
時間
場所

5月19日(土)、6月16日(土)
午後3:00~3:30
西部図書館 お話し会のへや



☆ 雨の季節の到来

関東でも、とうとう梅雨の季節がやってきました。しとしと、じめじめ、家の中にももっていると、イライラも……。けれども、雨はまた同時に恵みも与えてくれます。

そこで、今回は、家の中でも、たっぷりと楽しめる絵本を集めてみました。恵みの雨、楽しい雨、いろんな雨をお子様と一緒に楽しんでみてください。



梅雨の季節



絵本・雨、あめ

ピーター・スピア作、評論社

子どもたちが外で遊んでいると、突然雨が降り出します。大急ぎで家へ戻った子どもたちは、雨具を身に着け、雨の日のお散歩に。景色を眺めたり、樋から流れる雨水で遊んだり、外は、いつもと違う楽しいことばかり。

雨の日の一日を、コマ割りした、透明感のある絵で描いた、字のない絵本。子どもと一緒に、お話を作ってみるのも楽しいですよ。

絵本・しずくのぼうけん

マリア・テルリコフスカ作、ポフタン・フテンコ絵、

内田莉紗子訳、福音館書店

この絵本の主人公は、バケツから飛び出した一滴の‘しずく’です。お日様に照らされたしずくは、雲の上に昇ったと思ったら、今度は雨になって地上に降ってきたり、水道管を通って洗濯機の中に入ったりと大冒険。

水の変化を、リズムカルな文章と、コミカルな絵で、物語風に描いた絵本。わかりやすく、化学に触れることができます。

絵本・あめのひ

ユリー・シュルヴィッツ作・画、矢川澄子訳

福音館書店

雨が降り出しました。窓に、屋根に、街に。女の子は、部屋の中で考えます。雨の情景を、行方を、明日は何をして遊ぶかと。

雨の日の情景と、その恵みを、繊細な線画と、淡い色彩で、描き出しています。地味な絵ですが、生命の息吹を感じさせてくれる絵本です。

絵本・みつけたぞぼくのにじ

ドン・フリーマン文・絵、大岡信訳

岩波書店(岩波の子どもの本)

虹をみつけた‘ぼく’は、それを捕まえようと外へ飛び出します。でも、虹がいるはずのところに来たのに、虹の姿は見えません。そこで、‘ぼく’は、次に虹がやって来た時のことを考えはじめ……。

暗い画面に、鮮やかな虹が美しい絵本。簡潔な文章で、子どもの空想の世界を豊かに描き出しています。



絵本・11ぴきのねこどろんこ

馬場のぼる作、こぐま社

ある日、11ぴきのねこたちは、森の近くの泥沼で見かけた恐竜の子ジャブが崖の下に落ちてしまったのを見つめます。ジャブを助けたねこたちは、ジャブと友達になります……。

単純明快なマンガ調の絵で描かれた、愉快な11ぴきのねこたちのお話。人気のシリーズの中の1冊です。



☆ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいお話を聞きに来てください！

次回は
時間
場所

7月 21日 (土)
午後 3:00 ~ 3:30
西部図書館 お話し会のへや



みみずく通信

No.56
2012.7.21

発行：すばなしの会みみずく

HP：www.h4.dion.ne.jp/~mimizuku/

☆ 夏、本番！

今年は空梅雨で、雨があまり降らないうちに梅雨明けしてしまいましたね。おまけに、梅雨のうちから、暑い日が続いていましたが、今度は本格的に夏！そして、夏休み！楽しいことがいっぱい待っています。

そこで、今回は、楽しい夏の本と、遅くなりましたが、5月に亡くなったセンダックの本をご紹介しますと思います。いろいろなことを考えさせられる本もありますので、お楽しみください。



夏休み！



絵本・へそもち

渡辺茂男作、赤羽末吉絵、福音館書店

雲の上に住む雷は、雨を降らせるのが仕事。けれども、雨を降らせるだけではなく、いたずらをしたり、おへそをとったりと、人々を困らせていました。ところが、ある日、和尚さんにつかまってしまい……。

画面をいっぱいに使った、大胆な構図と、お話に合った絵がすばらしい絵本です。

絵本・すいかくんがね

豊田一彦作・絵、童心社

夏の海でスイカ割り。でも、この‘すいかくん’、とっても身軽。棒からひよひよいのひよい、っと上手によけて、なかなか当たりません。けれども、とうとう最後に……。

リズムカルな文章と、コミカルな絵が楽しい絵本。‘すいかくん’の意外とオヤジなところも楽しいですよ。

絵本・はちうえは ぼくに まかせて

ジーン・ジオン作、マーガレット・フロイ・グレアム絵、森比左志訳、ペンギン社

夏休み、トミーは留守の家の鉢植えを預かるアルバイトをすることに。けれども、一生懸命世話をするうちに、家の中はジャングルのようになってしまいます。そこで、あることに気付いたトミーは……。

トミーの奮闘ぶりも楽しい絵本。植物の緑が印象的な、心温まる1冊です。

科学読物・こおり

前野紀一文、斉藤俊行絵、福音館書店

水の分子には、水から氷に変わるとき、水の分子だけでくっつき、他のものを押し出しでしまうという頑固な性質があります。この頑固な性質は、地球規模の大きな海流を生み出す原動力にもなっています。この本では、そんな水・氷の性質を、絵を交えて、分かりやすく解説してくれています。



絵本・ナヌークの贈りもの

星野道夫写真・文、小学館

不思議な冷たい炎に導かれて、少年は歩き出します。そして、夢の中で、ナヌークの言葉を聞き、本当の狩人になるために必要な、自然界の掟について教えられます。

ナヌークとは、エスキモーの言葉で、氷の世界の王者・シロクマのこと。

美しい写真と言葉で、生きとし生けるものへのメッセージを伝えます。

次回は
時間
場所

8月18日(土)、9月15日(土)、10月20日(土)
午後3:00～3:30
西部図書館 お話し会のへや



追悼・モーリス・センダック

去る5月8日、『かいじゅうたちのいるところ』でおなじみの、モーリス・センダック氏が亡くなりました。83歳でした。絵本作家・イラストレーターとして、80冊を超える作品を残し、数々の絵本賞も受賞していました。そこで、センダックを追悼して、彼の作品を少し紹介したいと思います。

絵本・あなほるものおっこちるところ

ルース・クラウド文、モーリス・センダック絵、
渡辺茂男訳、岩波書店(岩波の子どもの本)

「顔は何のためにあるの?」「犬ってどんな動物?」「穴は?」……。次々と出てくる疑問に、子どもたちが答えてくれます。その答えは、大人ではとても出てこないようなものばかり。そこへ、遊び心たっぷりの楽しい絵がついたら、ただただ、感心するばかりです。

絵本・かいじゅうたちのいるところ

モーリス・センダック作、神宮輝夫訳、富山房

ある晩、イタズラがすぎたマックスは、夕食抜きで寝室に放り込まれます。ところが、そこは、だんだんジャングルになり、波が運んできた船に乗って、着いたところは、怪獣たちの住む島です。そこで王さまになったマックスは……。

2010年に映画化もされた作品。センダックの代表作の一つです。

絵本・まよなかのだいどころ

モーリス・センダック作、神宮輝夫訳、富山房

ある晩、ミッキーが、ベッドから落ちたところは、明るい真夜中の台所。そこでは、毎晩、パン屋さんがケーキを焼いていて、そのケーキの中にミッキーは入れられてしまい……。

『かいじゅうたちのいるところ』と合わせて、センダックの三部作の1冊に数えられる作品。コマ割りされた絵は、細かく描かれていて、じっくり見たくなりますよ。

絵本・ケニーのまど

モーリス・センダック作、神宮輝夫訳、富山房

夢の途中で、ケニーは目を覚まします。夢の中でケニーは、4本足のおんどりから、1枚の紙を渡されます。その紙には、なぞなぞが7つ書いてあります。目覚めたケニーは、その7つのなぞなぞの答えを探し始めますが……。

子どもの空想、不思議への憧れなどを描いた、センダック初期の傑作です。



絵本・わたしたちもジャックもガイもみんなホームレス

モーリス・センダック作、神宮輝夫訳、富山房

マザーグースの中の2つの詩にのせて、現代社会の問題に目を向けた作品。ホームレスの男子、ジャックとガイを主人公に、ホームレス、病気、飢餓、誘拐など、劣悪な環境の中で、生きていく強さを教えてくれます。難しい問題を含んでいるため、小学校中級以上の子ども向けです。

★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください!

次回は **8月 18日(土) . 9月 15日(土) .**
10月 20日(土)
時 間 **午後 3 : 00 ~ 3 : 30**
場 所 **西部図書館 お話し会のへや**



☆ グリム童話誕生200年！

1812年に、グリム童話集の第1版第1巻が『子どもと家庭のメルヘン集』と題して刊行されてから、今年でちょうど200年になります。これを記念して、すばなしの会でも、11月4日(日)には、小学校高学年以上を対象とした語りの会を開催いたします。それに先駆けまして、今回は、グリム童話の絵本、語りの本を紹介したいと思います。みなさんも、よくご存じのお話ばかりですが、改めて読んでみると、意外と思ひ違いや、うろ覚えだったりするものも多かったですりするかもしれませんよ。



グリム、グリム、グリム



絵本・ **おおかみと七ひきのこやぎ**

フェリックス・ホフマン絵、瀬田貞二訳、福音館書店

7匹の子ヤギたちが留守番をしているところへ、オオカミがやってきます。オオカミは、悪知恵を働かせて、末っ子1匹を残して、みんな丸呑みにしてしまいます。そこへ、お母さんヤギが帰ってきて……。

グリム童話の中でも有名なお話。繊細な線と、深みのある色調で、幼い子の心をひきつけます。

絵本・ **赤ずきん**

バーナディット・ワッツ絵、生野幸吉訳、岩波書店

ある日、赤ずきんは、森のおばあさんのところへ、お使いに行きます。ところが、お母さんの言いつけどおりにしないで、道草をくってしまい……。

明るい色調と余白を生かしたカットで、子どもたちを巧みにお話の世界へいざないます。

大型本と小型本がありますが、お好みでどうぞ。

絵本・ **ねむりひめ**

フェリックス・ホフマン絵、瀬田貞二訳、福音館書店

子どもがなかった王さまとお妃さまにお姫さまが生まれて、盛大なお祝いの宴が催されます。そこへ、一人だけ招かれなかった、13人目の占い女がやってきて、お姫さまに呪いをかけていきますが……。

「いばら姫」としても知られるお話。地味な色彩ですが、計算された構図で、お話の格調の高さを際立たせています。

絵本・ **くまの皮をきた男**

フェリックス・ホフマン絵、佐々梨代子、野村ひろし訳、こくま社

悪魔と契約を交わし、熊の毛皮を着せられた若者は、「くまっ皮」と名のつて、放浪の旅を続けることとなりますが……。

繊細な線画と、美しい色彩で、スケールの大きなお話を描き出しています。ホフマンが4人の孫たちに贈ったグリムの絵本の中でも、最晩年の作品です。



読物・ **子どもに語るグリムの昔話(全6巻)**

佐々梨代子、野村ひろし訳、こくま社

201話あるグリム童話の中から、子どもに語るのに適したお話、64話を集めた童話集です。全6巻の中には、「おおかみと七ひきのこやぎ」や「赤ずきん」のように小さい子に向く話から、「熊の皮を着た男」のようにスケールの大きな、大きい子向けの話もあり、年代を問わずお楽しみいただけます。この中から、好きなお話を探して、どうぞ子どもたちに読んであげてください。



☆ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は
時間
場所

11月 17日 (土) . 12月 15日 (土)
午後 3 : 00 ~ 3 : 30
西部図書館 お話し会のへや



みみずく通信

No.58

2012.12.15

発行：すばなしの会みみずく

HP：www.h4.dion.ne.jp/~mimizuku/

☆ MERRY CHRISTMAS !!

今年もとうとう12月になりました。街路樹は、色とりどりのイルミネーションでお化粧されて、サンタさんが来るのを今か、今かと待ち構えているようです。そこで、今年の最後に楽しいクリスマスの本と、ちょこっとだけ干支の本を紹介します。忙しさの合間に、少しだけコーヒープレイクはいかがでしょう。



メリー・クリスマス!



絵本・こびとのくつや

グリム童話、バーナネット・ワッツ絵、佐々木田鶴子訳
西村書店

ある晩、貧しい靴屋が靴にする皮を裁って寝ると、不思議なことに、翌朝、靴が出来上がっています。おまけに早速売れて、それからは暮らしが楽になっていきます。クリスマスも間もないある晩、靴屋が物陰に隠れて見張っていると……。

グリム童話の中のお話を絵本にしたもの。柔らかい絵が、このお話にとっても合っていますよ。

絵本・くんちゃんとふゆのパーティー

ドロシー・マリノ作、新井有子訳、ペンギン社

はじめて雪を見た、クマのくんちゃんは、「雪って素敵だね。」と、小鳥に話しかけます。すると、小鳥は、雪に覆われてしまうと、食べ物が見つからなくなると言います。それを聞いたくんちゃんは……。

好奇心旺盛で、個性豊かなくんちゃんの成長する姿を、やさしい線画で描いた絵本。人気シリーズの1冊です。

絵本・グロースターの仕立て屋

ビアトリクス・ポター作・絵、石井桃子訳、福音館書店(ピーター・ラビットの絵本)

クリスマス前のある晩、貧しい仕立て屋が市長の婚礼衣装を作り始めます。すっかり準備は整って、あとは縫うばかり。ただ、足りないのは紅色の穴糸が一かせだけ。ところが、仕立て屋は病気になってしまい……。

大人気のピーター・ラビットのシリーズの中の1冊。繊細で美しい絵と、詩的な文章で、クリスマスの奇跡を語ります。

しかけ絵本・ハヌカーのあかり

マイケル・J・ローゼン文、ロバート・サフダ絵・紙工作
菊池由美訳、大日本絵画

ハヌカーとは、毎年12月の8日間行われるユダヤ教のお祭りです。8日の間、毎夜、ろうそくが1本ずつともされていきます。そのお祭りの様子を描いたのがこの絵本です。砂漠で、大洋の真ん中で、農場で、ろうそくがともされていく様子を、美しいしかけ細工で物語ってくれます。



折紙の本・おりがみでクリスマス 1~3

日本折紙協会編集・発行

もうすぐクリスマスです。そこで、この本はいかがでしょう。天使やトナカイ、サンタクロースはもちろんのこと、クリスマスリースをかたどったポケットで、カレンダーを作ったり、サンタクロースのおうちを作ったり。親子で折紙も楽しいですよ。

次回は
時間
場所

2013年 1月19日(土)、2月16日(土)
午後3:00~3:30
西部図書館 お話し会のへや



まだまだ、あります！

読物・クリスマスってなあに？

ジョン・G・ロビンソン文・絵、小宮由訳
岩波書店

クリスマスって、いつから始まったか知っていますか？

この本は、クリスマスの由来、クリスマスの準備からかたづけまでの楽しい日々、そして、サンタクロースのことまでを、3色使いのかわいらしい絵とともに、分かりやすく教えてくれます。

読物・雪の森のリサベツ

アストリッド・リンドグリーン作、イロン・ヴィークランド絵、
石井登志子訳、徳間書店

雪のたくさん積もったある日、リサベツはお手伝いのアルバとクリスマスの買い物へ出かけます。ところが、アルバが買い物をしている間に、知らない人のソリに思わず飛び乗ってしまったリサベツは……。

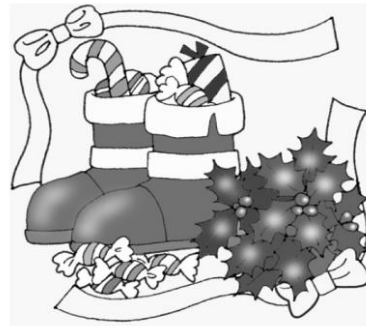
不安と闘いながら、必死にがんばるリサベツの気持ちがよく描かれていて、一緒に冒険できる本です。小学校低学年～。

読物・雪の日のたんじょう日

ヘレン・ケイ作、バーバラ・クーニー絵、安藤紀子訳
長崎出版

今日はスティーブンの誕生日。願っていた通り雪は降って来たけれど、降りすぎて誰も来られません。スティーブンが誕生会を諦めかけていると……。

家族の愛情や他人への思いやりの心を描いた心温まる物語。バーバラ・クーニーの絵が、お話の気分を盛り上げてくれます。



来年は、巳年



絵本・へびのクリクター

トミー・ウンゲラー作、中野完二訳、文化出版局

ボドさんは息子から、誕生日のプレゼントにへびをもらいます。そこで、ボドさんは、そのへびをクリクターと名付けて、子どものように大切に育てることに。ある晩、ボドさんの家にどろぼうが押し入ってきますが……。

ユーモラスな線画の絵本。ボドさんとクリクターの対比も面白いですよ。



絵本・ね、うし、とら……十二支のはなし

中国民話より、ドロシー・バン・ウォアコム文、
エロール・ル・カイン絵、辺見まさを訳、ほるぷ出版

なぜネズミが、干支の最初になったかのお話です。

ネズミとウシが、どちらが干支の一番になるかで争います。けれども、なかなか決着がつかないので、町の人々に決めてもらうことにしますが……。

中国の昔話です。よく知られているお話とは違いますが、中国風の絵がお話とよく合っていて、楽しい絵本です。



★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は
時間
場所

2013年 1月 19日(土) , 2月 16日(土)
午後 3:00 ~ 3:30
西部図書館 お話し会のへや



☆ もうじき春？

暦の上では、春になりましたが、まだまだ寒かったり、雪が降ってきたりと、春はまだ遠いようです。それでも、そろそろスギ花粉が飛び始めているようで、ゆっくりでも、確実に春は近づいてきています。そこで、今回は、もう少し冬を楽しんでいただく本をご紹介します。それと、少し過ぎてしまいましたが、鬼の本も一緒にどうぞ。



雪が降ったら…



絵本・このゆきだるま だーれ？

岸田衿子文、山脇百合子絵、福音館書店

もみちゃんがソリを引っ張っていると、動物たちが集まってきて、みんなでソリ滑りをすることに。みんなでソリに乗って、山の上から滑って来たけれど、次から次へと動物たちが落ちて行き……。

軽快な文章と、かわいらしい絵で、雪の日の楽しい一日を描いています。

絵本・きこえる きこえる ふゆのおと

マーガレット・ワイス・フラウン作、

チャールズ・G・ショー絵、吉上恭太訳、小峰書店

ある日、子犬のマフィンには、いろんな冬の音を聞きます。雨の降る音、暖炉で炎が燃える音、ガラスに霜が張る音。そして、次の朝、マフィンが生まれて初めて聞いた音は……。

子犬の耳を通して、冬の訪れや情景を描き出した絵本。絵もおしゃれで、素敵です。シリーズでどうぞ。

科学読物・雪の一生

片平孝著、あかね書房(科学のアルバム)

季節が、秋から冬へ、そして、雪解けへと移っていきます。この本では、そんな季節の移ろいを、たくさんの写真を使って、分かりやすく解説してくれます。美しい写真を見ているだけでも、いろいろな雪の姿が分かってきますので、たまには科学読物にも挑戦してみてください。小学生以上。

絵本・おふとん かけたら

かがくいひろし作、フロンヌ新社

“たこさん たこさん／おふとんかけたら”

で、ページをめくると、すごい寝相のタコの姿が。他にも、ソフトクリームに、アリにと、小さな子の身近にあるものたちの不思議な寝姿が、子どもたちの心をひきつけます。今度は誰かな？ どんな寝相かな？ と話しながら読める絵本。遊び感覚で楽しんでみてください。小さい子に。



絵本・鬼のうで

赤羽末吉文・絵、偕成社

酒吞童子退治の時に逃げ出した鬼が、羅生門に住み着きます。その鬼の腕を、渡辺綱が切り取って持ち帰りますが……。

よく知られる羅生門の鬼退治の話を、赤羽末吉が絵本にしたもの。画面いっぱい描かれた絵は、迫力があり、勇壮なこのお話によく合っています。大きい子向け。

★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は **3月 16日 (土) , 4月 20日 (土)**
時 間 **午後 3 : 00 ~ 3 : 30**
場 所 **西部図書館 お話し会のへや**